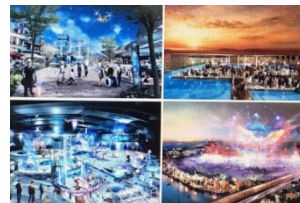


大阪 IR 基本構想（案）パブコメ

今年2月に大阪府・市から提出された構想案に対するパブリックコメントが、明日9日で締め切られる。多くの府・市民にコメントを提出してもらいたい。構想案のポイントを紹介して私見を述べておきたい。写真は構想案表紙。これが「夢洲」に？



大阪 IR 構想案は次の6章から構成されている。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 大阪の現状と取組みの方向性 | 2 大阪 IR のめざす姿 |
| 3 懸念事項と最小化への取組み | 4 IR 立地による効果 |
| 5 地域の合意形成に向けた理解促進 | 6 スケジュール等 |

この構想案からも、「IR」と呼ばれる統合型リゾートが矛盾に満ちた政策なのが見える。IR はカジノ施設とその他の施設が一体となっているリゾート施設であり、カジノからの収益を前提にしている。カジノなくして、話が先に進まないのだから。そのためギャンブル等依存症が懸念材料とされ、その施策に多くの紙面を割いている。懸念材料をなくすには、統合型リゾートからカジノを切り離せばよいが、すると IR は成り立たなくなる。このあたりを中心に、2点に絞ってコメントしておきたい。

第1に、2で大阪 IR の基本コンセプトとして、「世界最高水準の成長型 IR」をあげる。大規模な IR を目指すようだが、カジノ施設はどの位置づけられているのか。基本コンセプトでは定かではないが、次の大阪 IR の想定事業モデルで、カジノ（ゲーミング）がきわめて大きな位置を占めるのが明白になる。注目したいのは年間売上 4800 億円の内訳。ゲーミング売上、これを GGR(カジノ行為粗収益、掛け金総額から顧客への払戻金に差引いた金額)と呼ぶそうであるが、全体で 3800 億円を見込んでいる。年間売上の 79.2%、8割がカジノという賭博からの収益なのである。大阪 IR の経済的な実態がカジノであることを、構想案自体がはっきりと認めている。地下鉄延伸もカジノ業者に 202 億円の資金提供を求めるといふ。今後は、「IR」ではなく、「カジノによるリゾート施設」「カジノ依存の統合型リゾート」とした方が分かりやすいのでは。

第2に、6スケジュール等で IR 開業が 2024 年になっていることである。「IR 整備法制定後の国の動きが未確定のため変動の可能性あり」と書かれているが、2月の案策定から半年後の現時点でも、想定スケジュールのように考えているのだろうか。日本経済新聞 7月18日朝刊にも「大阪 IR 地元は焦り 万博前開業に黄信号」と書かれている。構想案でも、なぜ 2024 年開業を想定するのか、その理由が記されていない。「夢洲まちづくり構想」をもとにした万博会場計画では、IR と万博が隣り合わせになっている。2025 年の万博開催前の IR 開業と考えていいのか。そうであるなら、想定スケジュールにも、万博終了後の跡地利用計画を含め、はっきり銘記すべきではないか。

(2019年8月8日)